

活動報告書

報告者氏名：谷本式慶 所属：東京都立八王子東特別支援学校

記録日：H25年2月27日

【対象児（群）の情報】

学年

高等部1年男子生徒：1名。

障害名

肢体不自由、知的障害、自閉症。

障害と困難の内容

対象生徒は、下肢にまひがあるが車椅子で一部自力移動が可能な、自閉症の特徴も有する知的に障害のある生徒である。見通しが立たない場面には不安を強く感じ、それが解決できないために、叫ぶ・自分の顔を叩く、服をかむ、教師をかもうとするといった行動となる。文字やシンボルの理解が難しいことから、写真を使用したスケジュール帳を作成・使用（3年目）しており、自発的な行動も見られるようになっている。

手や腕のまひ等は少なく、ある程度細かい操作が可能である。身振りや指差しで簡単な要求を伝えることができ、いくつかの単語を発声して自ら人に関わることができる。多くのことへの理解は難しいが、日々行っていることであれば、音声言語による簡単な指示を理解して、行動することができる。コミュニケーションでは、経験した内容の写真カードであれば注視するなど集中することができ、話題を共有している様子がみられる。印象深いいくつかの話題に関しては、シンボルを指差しして相手の視線を誘導し、身振り＋発語によりコミュニケーションを行うことができる一方、自分からの要求は少ない。希望・要求を周囲に伝えられないことへのストレスで感情が高ぶり、活動へ参加できなくなることもある。

【活動目的】

当初のねらい

予定を理解して1日の活動に見通しを持つことで、落ち着いて活動に参加できるようになる。

希望・要求を周囲に適切に伝え、自発的な行動を増やす。

実施期間

2012年／4月／29日から2013年／2月／日まで（現在も継続中）

実施者

谷本 式慶

実施者と対象児の関係

在籍校の自立活動コミュニケーション担当教諭

【活動内容と対象児（群）の変化】

対象児（群）の事前の状況

- ・紙ベースのスケジュール帳（ボードメーカーで作成）を、車椅子後ろの鞆から取り出して確認することができるが、厚くて重いため、自分で取れずにあきらめることがある。
- ・スケジュール帳を持ち上げた際に気がつかずに閉じ具を開き、ファイルがバラバラになることがある。
- ・紙ベースのためスケジュール変更がその場で難しく、口頭で説明されるが納得できない。
- ・家庭や学校でスケジュール帳をめくって眺め、印象深い予定を指さしながら「これ？」と話しかける。
- ・パソコンに入っている好きな動画をマウス操作で再生して鑑賞できる。しかし、パソコン使用希望の意思伝達や、支援者の介助（電源を入れる・当該フォルダを開く・誤ってフォルダを閉じた場合に改めて開く等）が必要で、使用できる場面が限られている。
- ・写真で要求伝達する練習に取り組んだが、本人の興味ある対象を取捨選択する試行錯誤にコミュニケーションブック等の製作が追いつかず、要求伝達の取り組みが不足している。

活動の具体的内容

導入：大切な道具となるような導入の工夫として、今まで行ってきた好む活動を iPhone の「ビデオ」に移植しての取り組みを開始した。（PC 上で、PC の動画を iPhone 用に変換。）

提示方法：本人の自己選択を尊重し、自由な時間に提示した。時折操作見本を見せ、強くは勧めないよう留意した。（ビデオを起動し画面を常時 ON。触れれば動く環境設定で置いておく。）これにより、2週間で「タップ」、3ヶ月で「スクロール」を習得でき、家庭で携帯するようになった。

活用：本人が携帯するようになってから、「たすくスケジュール」にてスケジュール提示を開始した。「たすくスケジュール」は内蔵されたシンボルをタップするとシンボルに応じた音声再生され、それを時間順に並べたり入れ替えたりすることができるスケジュール作成アプリである。他のシンボルや画像も登録でき、音声を録音して追加することができる。急な予定変更がその場で可能であり、カメラ機能により出先等その場で画像を登録・使用できる。担任が作成した紙ベースのスケジュールを保護者が「カメラ」機能で撮影して作成している。修正例には「雪のため休校」などがある。終了したシンボル等をフリックすると、チェックがついて薄い表示となる。また、iPhone 用 VOCA（Voice Output Communication Aids）アプリ「DropTalk」を使用して、遊びを選択して意思伝達する練習も行った。「DropTalk」は、表示されたシンボルをタップすると音声を再生できる。他のシンボルや画像も登録でき、音声を録音して追加することができる。一度に表示するボタンの数を 1,2,4,6,9 から選択することができる。「ボタンを押す→音声が再生されて遊びが開始」を理解し、8枚から選択・再生を行った。（「キャンパス」は4枚表示）



対象児（群）の事後の変化

- ・スケジュールを、紙ベースのスケジュール帳と iPhone の両方で準備している。毎朝登校すると自分で iPhone を取出して見ている。
- ・車いすの後ろから自分で iPhone を取り出せていて、スケジュール帳をバラバラにするトラブルはなくなった。
- ・ホーム画面が開いていれば、「ビデオ」「たすくスケジュール」「写真」「DropTalk」から好きなアプリを一人で起動できる。
- ・パソコンで鑑賞していた好きな動画を「ビデオ」を起動して選択・再生できる。
- ・家庭・学校・学童クラブで撮影した画像・動画を「写真」を起動して選択・視聴できる。
- ・コミュニケーション担当の教師がいるときには「DropTalk」を起動して遊びを要求することができる。

【報告者の気づきとエビデンス】

主観的気づき

・対象生徒が、iPhone が有効な道具であることに気づいて意欲的に操作し、主体的に活用している。その中で操作技術が向上している。

・「DropTalk」の遊びでは次々とテンポよく遊びを伝え、会話でやり取りをしているような印象をうけるほど、他の場面に比べてやり取りがスムーズにできている。

エビデンス（具体的数値など）

・初めは提示されると片手で操作していたが、現在は両手を使用して一人で所持し、タップ、ダブルタップ、フリックによるスクロールができている。

・登校時、促されることなく自分で iPhone を鞆から取り出している。

5月：なし → 1月：毎日

・学校でも、時折自分で取り出し、スケジュールを確認している：約6回/1日

・家庭で毎日使用している。

・「DropTalk」では、1つの遊び終了後3秒以内に iPhone を操作し始め、タップ直後に教師と視線が合い遊びが開始する。これを10回以上程連続で行う。

その他エピソード（画像などを含めて）

以前からできている「家庭や学校でスケジュール帳をめくって眺め、印象深い予定を指さしながらこれ？と話しかける。」ことが、iPhone の「たすくスケジュール」でもできるようになっており、「DropTalk」では限られた遊びの中ではあるが、ルールを理解して素早く要求伝達ができている。一方、

・iPhone の「写真」を1人で長い時間鑑賞しているが、人と共有しようという様子は今はない。

・「たすくスケジュール」では、以前のスケジュール表示を自分でできない。

といった課題もある。また、支援する側からいえば、コミュニケーションブックや VOCA 製作が、PC では複数の機材で多くの手順を経ていたものが、iPhone では単体で全てがまかなえ、撮影したその場で VOCA として使用できるという大きなメリットがある。

自ら選択できることでより充実した生活を送れるよう、個別具体的な要求伝達の数や種類を増やし、生活場面でのより広い VOCA 等の活用に向けて取り組みを継続していきたい。

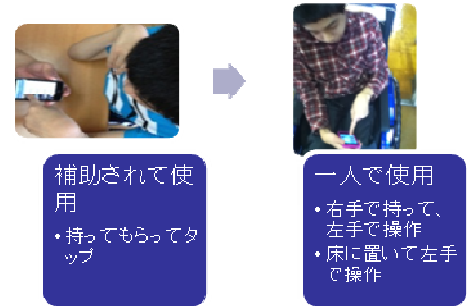


図1 操作の変化

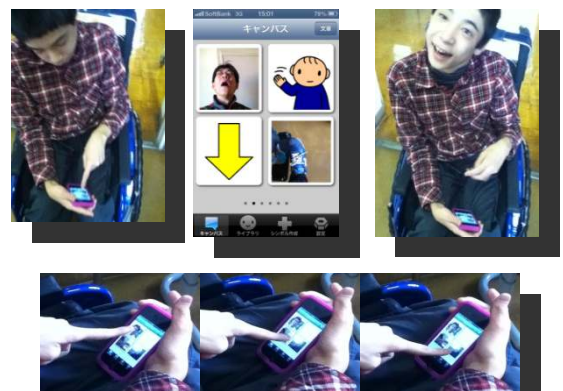


図2 「DropTalk」操作の様子